

「國學院大學「国学研究プラットフォーム」の構築」

プロジェクト責任者 遠藤 潤

1. はじめに

この研究事業は、日本文化研究所に置かれた「神道・国学研究部門」と「国際交流・学術情報発信部門」の二部門のうち、前者によって行われるものである。平成23年度から3ヵ年にわたって計画されている。

この事業では、日本文化研究所が創立以来進めてきた、神道の基礎的研究、神道・国学関係人物研究、神社史料調査など、神道・国学に関する研究活動の成果に立脚し、国学に関する基礎的研究を進めるとともに、学内でさまざまに行われている国学研究のプラットフォームを構築し、ゆくゆくは学外との研究交流の基点としようとするものである。

2. 事業内容の概略

I 国学研究の基礎データ構築

(1) 『古史伝』版本のデジタル化とそれにもとづく研究

(2) 国学者の地域拠点の研究

II 国学に関する研究連携のための組織づくり

(1) 国学研究会の運営

(2) 異なるプロジェクト間での研究関係情報の共有

3. 平成23年度の研究成果

I 国学研究の基礎データ構築

(1) 『古史伝』版本のデジタル化とそれにもとづく研究

『古史伝』に関する研究を進めるに先立ち、その前提となる『靈能真柱』について、平成22年度までの研究事業「近世国学の靈魂観をめぐるテキストと実践の研究—靈祭・靈社・神葬祭—」の成果を点検しつつ、隔週での研究会において、同書本文の解釈について補訂を進め、同書に引用された『古史伝』の内容の確認を進めた。その上で、國學院大學図書館所蔵の複数の『古史伝』版本について、書誌をはじめとする基本情報を調査した上で、デジタルカメラによる撮影を実行した。また、研究利用のために以前のプロジェクトで撮影済となっていた『古史伝』稿本について、デジタルデータからのプリントアウトおよび製本を業者への委託により行った。

(2) 国学者の地域拠点の研究

加賀藩に関して、藩の神社政策に関する自治体史などの研究成果をリストアップし、重要なものについての検討会を行った。その政策および藩と国学者の関係について、11月2～4日に金沢市玉川図書館での資料調査を行った（詳細は『日本文化研究所年報』本号所収「第2回国学研究会」参照）。また、長野県域に関して、3月21～23日に長野県立図書館および長野県立歴史館で、現在の長野県域の諸藩関係調査を実施した。これらの調査・研究を通じて大平門や気吹舎の門人および組織

についての知見も得ることができた。

II 国学に関する研究連携のための組織づくり

金沢での史料調査にあわせて、11月3日、共同研究員である一戸渉（金沢大学准教授）の協力により、金沢大学サテライトプラザにおいて国学研究会を開催した（詳細は本号所収「第2回国学研究会」参照）。

3. 平成24年度の研究計画

平成24年度の研究計画としては、当初計画として以下のような計画を立案した。

I 国学研究の基礎データ構築

(1) 『古史伝』版本のデジタル化とそれにもとづく研究

『古史伝』版本の精読のための研究会を隔週で行う。これは、全体を網羅的に扱うのではなく、近世末から近代にかけての『古史伝』解釈の具体的なあり方に注目しつつ、各人が視点を定めて必要な箇所を精読する。研究会にあたっては『古史伝』稿本（秋田県公文書館所蔵）を適宜参照し、版本の形態になる以前の加筆・訂正などの編集作業についても配慮しつつ読解を進める。研究会の成果については、注釈を本文と結びつけて整序した形で記録し、デジタルの形での公開に向けて編集

する。

(2) 国学者の地域拠点の研究

中津藩、紀州藩などの藩に関わる神道・国学関係資料の調査については、首都圏の収蔵機関における調査を中心とし、遠隔地域への出張調査は行わない形で進める。

鈴屋および気吹舎の地方門人の活動の分析については、江戸・東京での国学者の活動（幕末期～明治期）について、東京都公文書館などの機関で調査を進める。また、大平・内遠門、神習舎などの門人組織については、先行研究やこれまでの研究事業の成果を見しつづつ、包括的な把握を目指す。また、神習舎については学内資料の調査を行うとともに、外部機関での資料についても把握する。幕末・維新期を中心とした京都での国学関係者の活動について、京都府立総合資料館で関係資料の調査を行う。

II 国学に関する研究連携のための組織づくり

学内のさまざまな国学研究プロジェクト間での研究関係情報の共有を目指して、平成23年度に開始した国学研究会について、平成24年度も数回開催する。24年度からは、国学関係の研究を行う学内の教員に参加を呼びかけるとともに、学外の有志の研究者にも広報・告知を行う。研究会の成果についても、ウェブなどによって広く学外への周知を図る。